

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	備	品	雑	益							
貸	倒	損	失	買	掛	金	普	通	預	金	引	取	運	賃		
雑	費	建	物	雑	損	償	却	債	権	取	立	益				
支	払	手	形	貸	倒	引	当	金	売	掛	金	現	金	過	不	足
旅	費	交	通	費	修	繕	費	受	取	手	形	保	管	費		
仕	入	土	地	発	送	費	売	上								

- 仕入先徳山商会より商品¥500,000を仕入れ、代金のうち¥300,000は当店振出の小切手で支払い、残額は掛けとした。なお、当店負担の引取運賃¥8,600は現金で支払った。
- 昨年度に得意先が倒産し、その際に売掛金¥1,000,000の貸倒れ処理を行っていたが、本日、得意先の清算に伴い¥350,000の分配を受け、同額が普通預金口座へ振り込まれた。なお、昨年度の貸倒れ時には貸倒引当金で補てんしている。
- 建物の定期修繕にともない代金¥3,000,000が当座預金口座より引き落とされた。定期修繕代金のうち、¥2,000,000は原状回復のための費用であるが、残額については建物の価値を増加させる効果を有していると認められた。
- 決算にあたり、現金の手許有高を調べたところ、帳簿残高は¥160,000であるのに対して、実際有高は¥150,000であった。この現金過不足額のうち¥6,000は、旅費交通費の計上もれであることが判明したが、残額については不明である。
- 販売目的で保有する棚卸資産の保管用倉庫の賃借料¥225,000を現金で支払った。

第2問 (10点)

霧島商店の平成30年10月の取引(一部)は次のとおりである。それぞれの日付の取引が答案用紙に示されたどの補助簿に記入されるか答えなさい。解答にあたっては、該当するすべての補助簿の欄に○印を付し、該当する補助簿がない取引には「該当なし」の欄に○印を付すこと。

- 3日 先月仕入先島崎商店より仕入れていた商品のうち¥5,600が品違いであったため本日返品した。なお、商品代金は島崎商店の掛代金と相殺した。
- 9日 先に受け取っていた約束手形¥600,000が当店の当座預金口座に入金された。
- 15日 得意先杉塘商事に対して商品¥1,200,000を販売し、代金のうち¥500,000は得意先振出の小切手で受け取り、残額は掛けとした。なお、商品発送時に当店負担の発送費¥36,000が生じており、現金で支払った。
- 21日 得意先光の森商事が倒産し、同商事に対する受取手形¥500,000および売掛金¥100,000が回収不能となり、貸倒損失として処理した。
- 30日 仕入先三角物産に掛代金¥300,000を代金のうち半分は当店振出の小切手で支払い、残額は当店振出の約束手形を振り出して支払った。

第3問 (30点)

次の、(A) 前期末の貸借対照表と、(B) 平成30年1月中の取引にもとづいて、答案用紙の合計試算表を作成しなさい。

(A) 前期末の貸借対照表

		貸借対照表			
		平成29年12月31日			
現	金	1,250,000	支	払	手
当	座	2,254,000	買	掛	金
受	取	2,000,000	前	受	金
売	掛	1,150,000	貸	倒	引
繰	越	336,000	備	品	減
前	払	150,000	資	本	金
前	払	55,000	資	本	金
備	品	1,150,000			
		8,345,000			8,345,000

(B) 平成30年1月中の取引

1. 現金に関する取引

- (1) 売掛金の回収 ￥ 100,000
- (2) 当座預金からの引出し ￥ 120,000
- (3) 商品受注に伴う手付金の受取り ￥ 300,000
- (4) 水道光熱費の支払い ￥ 66,000
- (5) 従業員への旅費の概算払い ￥ 80,000

2. 当座預金に関する取引

- (1) 約束手形の期日入金 ￥ 500,000
- (2) 買掛金の支払い ￥ 300,000
- (3) 現金の引出し ￥ 120,000
- (4) 約束手形の期日支払い ￥ 250,000
- (5) 小切手振出しによる商品の仕入れ ￥ 364,000
- (6) 給料の支払い ￥ 275,000
- (ただし、預り金¥25,000 控除後の金額)
- (7) 通信費の支払い ￥ 26,000

3. 仕入に関する取引

- (1) 約束手形の振出しによる仕入れ ￥ 220,000
- (2) 掛仕入れ ￥ 998,000
- (3) 小切手振出しによる仕入れ ￥ 364,000
- (4) 仕入戻し(掛代金から控除) ￥ 25,000

4. 売上に関する取引

- (1) 約束手形の受取りによる売上げ ￥ 500,000
- (2) 掛売上げ ￥ 860,000
- (3) 手付金を受取っていた得意先への商品の引渡し ￥ 200,000
- (4) 売上の返品(掛代金から控除) ￥ 36,000

5. その他の取引

- (1) 前期末に計上された前払家賃勘定の再振替処理を期首に行った。
- (2) 前期に発生した売掛金¥52,000 が貸倒れた。
- (3) 備品¥800,000 を取得し、代金は翌月末に支払う。

**第4問 (8点)**

大迫商店は、日々の取引を入金伝票、出金伝票および振替伝票の3種類の伝票に記入し、これを1日分ずつ集計して仕訳日計表を作成し、この仕訳日計表から総勘定元帳に転記している。同店の平成30年11月1日の取引について作成された次の各伝票にもとづいて、仕訳日計表を作成しなさい。

入金伝票 (受取手形)	No.101 100,000
入金伝票 (売上)	No.102 180,000
入金伝票 (当座預金)	No.103 50,000

出金伝票 (仕入)	No.201 96,000
出金伝票 (営業費)	No.202 29,000
出金伝票 (買掛金)	No.203 250,000
出金伝票 (支払手形)	No.204 100,000

振替伝票 (買掛金) (仕入)	No.301 1,000 1,000
振替伝票 (買掛金) (支払手形)	No.302 150,000 150,000
振替伝票 (売掛金) (売上)	No.303 300,000 300,000

**第5問 (32点)**

次の未処理事項・決算整理事項にもとづいて、答案用紙の精算表を完成させなさい。なお、会計期間は1月1日から12月31日の1年間である。

未処理事項・決算整理事項

1. 売掛金のうち一部が当店の普通預金口座へ振り込まれていたことが判明し、その振込金額を仮受金勘定(当該取引以外に仮受金勘定に計上したものはない)で処理していた。
2. 期末商品の棚卸高は¥95,000であった。売上原価は「売上原価」の行で計算すること。
3. 備品について定額法(残存価額ゼロ、耐用年数8年)により減価償却を行う。
4. 期末の受取手形および売掛金の残高に対して5.5%の貸倒れを見積り、差額補充法により貸倒引当金を設定する。
5. 給料の未払分が¥108,000ある。
6. 受取地代は奇数月の月末にむこう2か月分として¥33,000を受け取っている。
7. 借入金は、当期の8月1日に期間3年、利率年5.7%(利息は毎年7月末に支払い)の条件で取引銀行より借り入れたものである。なお、利息の計算は月割によること。